

北海道支部活動報告
「日本木材学会北海道支部 第51回研究発表会」

北海道支部常任理事 澤田圭（北大院農）、今井良、伊佐治信一（道総研林産試）

北海道支部では毎年5月下旬～6月上旬に研究会、10月下旬～11月上旬に研究発表会を開催しています。研究発表会は札幌と旭川で開催しており、1年ごとに開催地を変えています。今年は11月6日に札幌コンベンションセンターで北方森林学会と合同で開催致しました。

午前には北方森林学会・日本木材学会北海道支部合同シンポジウム「北海道胆振東部地震の被災対応と森林再生に向けて」が開催されました。3題の講演があり、厚真町産業経済課の宮久史主幹より「厚真町における森林の被災状況と対応方針について」、北海道大学の佐々木貴信教授より「災害時における地域材を活用した支援の可能性」、北海道立総合研究機構林業試験場の佐藤創専門研究主幹より「被災森林の再生に向けた実証試験委託業務の概要と取り組み状況」について報告して頂きました。

昼休憩の後、日本木材学会北海道支部第51回研究発表会が開催されました。北海道支部代表の佐野雄三教授による開会の挨拶から始まり、口頭発表が行われました（図1）。今年は4機関から19題の研究発表と85名の参加者があり、研究成果の報告と活発な議論が交わされました。発表内容につきましては当支部HP（<http://www.agr.hokudai.ac.jp/wrsh/>）にて公開しておりますので、そちらをご覧ください。当支部では優れた発表を来場者の投票により選考して「北の木材科学賞」として表彰しております。今年は次の2題が「北の木材科学賞」として選ばれ、口頭発表終了後の授与式では、支部代表から発表者へ賞状と副賞が贈られました。

「アセチル化セルロースナノファイバーから作製した透明な紙」

（北大院農）平良尚梧、幸田圭一、浦木康光、（日本製紙）金野晴男、
（ダイセル）島本周

「チドリノキとハウチワカエデの茎頂培養」

（北大院農）竹内信吾、佐野雄三、荒川圭太、山岸祐介

研究発表会当日は日本木材学会会長の船田良教授にご来場頂き、研究発表会の御講評を頂きました。北海道における研究の意義や支部活動に関して大変力強いお言葉を頂きました。

研究発表会終了後には札幌コンベンションセンター内のレストランで、北方森林学会と合同の懇親会が開かれました。様々な分野の方達と一堂に会することで貴重な意見交流の場となり、意義深い時間を過ごすことができました。

最後に第51回研究発表会が無事に終わりましたのも、発表者および参加者のご協力のお陰です。発表会運営の一部を担ってきた者として御礼を申し上げます。



図1 口頭発表会場